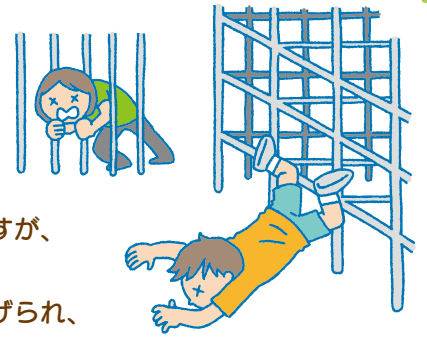


遊具と安全



子どもは遊具を使った遊びを通して冒険や挑戦をし、心や体の能力を高めていきますが、そこには危険が隣り合わせです。
事故原因となりやすい遊具は、滑り台、ブランコ、鉄棒やジャングルジムなどがあげられ、年齢は6歳以下が多く、「墜落・転落」による上肢や顔の怪我が多いです。

応急処置のポイント

<h3>頭をぶつけた</h3>	<p>安静に寝かせる</p>	<p>意識・動きを確認</p>	<p>安静に横に寝かせ、意識や手足の動きを確認しましょう</p> 
<h3>打撲や、腫れている部位</h3>	<p>冷却</p>	<p>骨折を疑う場合は副え木</p>	<p>氷のうなどで冷却し、手足の骨折を疑う場合は副え木などで固定しましょう</p> 
<h3>傷</h3>	<p>水道水で洗淨</p>	<p>圧迫止血</p>	<p>傷があれば水道水で洗淨し、出血している部位は清潔なタオルなどで圧迫しましょう</p> 

家庭での事故(傷害)予防のポイント

遊具の対象年齢・使用方法を確認し、6歳以下の幼児には保護者が付き添いましょう



雨天時は滑りやすく転倒・転落に注意しましょう



手すりや防護柵がない遊具や周囲に衝撃吸収マットがない遊具は利用しないようにしましょう



子どもの衣服や所持品に注意しましょう
特に首回りや遊具にひっかかるものは避けましょう



夏場は金属製の遊具が熱くなっているのやけどにも注意しましょう



遊具の不具合や破損、繰り返す事故があったら、利用を控え管理者に報告しましょう



実際にあった事例

遊具による溢頭 Injury Alert(傷害速報)No.27

3歳の女の子が、高さ2mある遊具の鉄柵の間に首が挟まりぶら下がっているところを発見された。救出された際には意識がなかったが、まもなく回復し大事には至らなかった

主治医からのひとこと